

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

自分を高め、ともに生きる喜びを実感できる境木の子 ～チャレンジアップ！かがやく自分～
 [知] 主体的に考え意欲的に学び続ける力を育てます。
 [徳] 自分を大切にしやさしさと強さをもつ子どもを育てます。
 [体] 心身ともに健康でたくましい体をつくる子どもを育てます。
 [公] 人や地域とのつながりを大切にすることを育てます。
 [関] 様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子どもを育てます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する能力>

具体化した資質・能力

場面に応じて多様な言葉を活用して表現する
 自分の主張を筋道立ててわかりやすく伝える
 見通しをもって行動する
 自他を生かしながら取り組む

中期取組目標

○境木小学校にかかわるすべての人が、ともに生きる喜びを実感できる学校にします。
 ・教育活動全体を通して、「だれもが、安心して、豊かに」生活できる学校づくりを進めます。
 ・地域とのつながりを生かし、様々な学習の中で、地域の人やものと関わりながら学ぶ子どもを育てます。
 ・豊かなコミュニケーションと多くの人との関わり合いを通して、自分に自信をもち、未知の可能性に挑戦していく子どもを育てます。
 ・自己肯定感を高め、「自分もあなたも大切に思う心」を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	◎子ども自身が、身につけたい資質・能力を意識し、自分の学びと学びのプロセスを意識することができる授業づくりを図る。 ○重点研究のテーマである「自らを見つめ、学び続ける子の育成」に向けて、課題解決に向けて自ら思考し、主体的に取り組む態度を養うとともに、他者のよさに触れ、相互に伝え合う活動を通して、自己の可能性を自覚させ、主体的な学び手の育成を図る。 ○日々の授業において、児童一人一人の学習状況を的確に見取り、次の学習や指導の改善に生かすこと、指導と評価の一体化
担当	A教育課程・学力向上・授業改善

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 令和6年度に実施した横浜市学力・学習状況調査の結果から、本校の児童は、学力は横浜市の平均値を少し超えている。家庭からの協力も得られる児童が多く、家庭学習をしっかりと積み重ねられている。教職員は、今後も研鑽・研究を積み重ね、家庭の協力を得ながら、個に応じたきめ細かな学習指導を継続していく。



(2)これまでの学校の取組状況
 ○図画工作科の重点研究
 「自らを見つめ、学び続ける子の育成」を研究テーマに、自分のよさに気づき、主体的に学び続ける児童の姿を目指し、研究してきた。
 ○ICT機器を活用した相互学習の充実
 GIGA端末を授業で積極的に取り入れてきた。自分の考えを文章や表、図などに表してまとめたり、オンライン上で教員と児童、児童と児童がお互いの考えを伝え合ったりすることで、それぞれが新しい考え方を獲得するなど、相互学習の充実に取り組んできた。
 ○特別支援の研修
 特別支援の研修を設定し、学習環境や個別最適な支援、ユニバーサルデザインへの理解を深め、日々の授業や児童指導に生かしてきた。

今年度の目標

自分のよさに気づき、課題解決にむけて学び方を自己調整することができる学びの支援を充実させる

目標を実現するための具体的行動プラン

	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	目標を実現するための具体的行動プラン 「低学年」 ・めあてや振り返りを大切に、自分のよさや相手のよさを実感できるようにする。 ・個のめあて、思いを実現するために、多角的な支援や協働的な学びの機会を充実する。 「高学年」 ・ICT機器や図書資料の活用に慣れ、課題に応じた情報収集の場を増やす。 ・自ら問いを見出し、問いを意識することで、学び方を選択したり、筋道を立てたりしながら学習を展開する。 「その他、全体を通して」 ・誰もが安心して学習に取り組むことができるように、学習環境のユニバーサルデザイン化を継続して行う。 ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実できるよう、授業研やメンター研を中心に授業を見合い、高め合う授業、教材研究を行う。
下半期	目標を実現するための具体的行動プラン 「低学年」 ・教材に合わせて、個のめあてや思いに合わせた学び方を選択肢の中から選んだり、見つけ出したりすることができる学習支援を行う。 「高学年」 ・自らの問いに対して見通しをもって自己調整し、粘り強く学習を継続する学習環境を充実させる。 「その他、全体を通して」 ・誰もが安心して学習に取り組むことができるように、学習環境のユニバーサルデザイン化を継続して行う。 ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実できるよう、授業研やメンター研を中心に授業を見合い、高め合う授業、教材研究を行う。 ・横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、日々の授業改善に役立てる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権・道徳教育	◎全ての教育活動を通して、進んで挨拶をしたり、やさしい言葉を使ったり、相手を大切にすることを育てる。 ○各学年に応じた福祉体験や障害者理解学習を通して、他者を理解し、自他の人権を尊重する心情を養う。 ○道徳教育を推進し、自分の思いを話したり、書いたり、話し合ったりする活動の中で、自分自身を見つめ、なりたい自分をイメージすることができるようにする。
担当	総務課・児童指導課・特別支援課 道徳教育推進

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
 比較的学力が高く、落ち着いて穏やかに生活している。進んで挨拶ができる子どもは多い。ただ、多くの子どもたちが、相手や状況を理解して、返事や挨拶をしていけるようにはなっていない。また、人のかかわり合いや相手の気持ちを考える行動することに、自信をもてていない。
 (2)これまでの学校の取組状況
 道徳科の授業の在り方を探るために、外部講師を招聘し研修を行った。「語り合い」の大切さを学ぶことができた。また、本年度は区の一斉研の授業を参観し、問題意識をもって授業に臨むための方法論について学んだ。たてわり活動では、6年生を中心に活動計画を立て、自主的に取り組むことができるようにした。さかいぎスマイルラリーにおいても、子どもたちのアイデアを生かした活動を取り入れることで、自主性を育むことができた。Y-Pアセスメントを活用することで、学級経営の見直しを行うことができた。教科書の変更に伴い、道徳別業の書換を行った。

今年度の目標

「明るいあいさつ」と「やさしい言葉」を増やす。

目標を実現するための具体的行動プラン

	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	○「道徳科を要した学校教育活動全体を通じた道徳教育」を実践するために、道徳科の研修を行い、学年の実態に応じて道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるような授業の在り方を探る。 ○「集団生活を通して身につける人権感覚」をどの子どもたちにも身につけてもらうために、体験的学習の充実を図る。 ・子どもたちがよりよい生活を築くための「話し合い活動」を自主的に行うことができるように、指導を積み重ねる。 ・異年齢集団活動(たてわり活動)を自主的に取り組むことができるように、たてわりタイムの内容を自分たちで計画して運営できる力を育てる。 ・Y-Pアセスメントを活用した児童の実態把握を通して人権感覚や意識の確認と支援をする。
下半期	○「集団生活を通して身につける人権感覚」をどの子どもたちにも身につけてもらうために、体験的学習の充実を図る。 ・子どもたちがよりよい生活を築くための「話し合い活動」を自主的に行うことができるように、指導を積み重ねる。 ・異年齢集団活動(たてわり活動)を自主的に取り組むことができるように、さかいぎスマイルラリーやたてわりタイムの内容を自分たちで計画して運営できる力を育てる。 ・野島宿泊体験学習を通して、集団生活におけるルールや役割、友達とのよりよい関係を学べるように支援する。 ・Y-Pアセスメントを活用した児童の実態把握を通して人権感覚や意識の確認と支援をする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	◎健康関連の学習等を再整備しながら、夏季・冬季休業中も健康カレンダーの活用で、家庭と連携して意識を高める。 ○どこでもだれでも取り組める境木小オリジナルの運動を行い、体力向上につなげていく。
担当	体育部 保健部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
 ○体育部
 市体力テストの結果より、体力・運動能力は市の平均を上回っている。
 ○保健部
 児童の不注意によるけがが多く、手当の方法を知らずに応急処置をしないまま保健室に来室する児童が多い。また、市学力状況調査の結果から、生活習慣が整っている児童が多い。
 ○体育部
 運動における児童の資質・能力を育むために体育委員会でオリジナル体操を作成し全校へ周知・実施をした。また、長期休業中に行う生活リズムカレンダーの中に、盛り込むことで、年間を通して柔軟性や持続力の向上、日常的に運動に親しむ態度の育成を図った。
 ○保健部
 昨年度の学校保健委員会では災害に備えよう―地震が起きたときに私たちができること―をテーマに、全学年で取り組みを行った。また、生活リズムカレンダーの中に、目標・振り返り欄を設けることで、家庭との連携のもと児童の健康や安心安全に対する意識の高まりと継続に努めた。

今年度の目標

健康でたくましい体をつくるために生活する力を高める

目標を実現するための具体的行動プラン

	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期	・学校保健委員会では、「ストレスと心の健康」について取り組む。普段の生活を振り返り、日頃からストレスと心の健康に対する意識を高め、ストレスの軽減や、心の健康を保つための行動に移すことができるようにする。また、講師や保護者ボランティアを募集し、学校と保護者、地域の関係機関と連携することで、実践を充実させる。 ・児童体育委員会では、境木小学校オリジナルの体操や運動を作成し、定期的に行う。 ・生活リズムカレンダーの内容を、児童保健委員会、児童体育委員会、また学校保健委員会の中で連携しながら検討し、作成する。 ・長期休業には、生活リズムカレンダーを実施し家庭と連携して意識を高めることができるようにする。夏休み実施後、冬休みに向けて反省を行い、改善する。
下半期	・夏休みの反省を生かし、冬休みの生活リズムカレンダーを実施する。 ・雨の日等、校庭が使用できない日を利用して、境木小学校のオリジナル体操を取り組む機会を確保し、実施する。 ・第一回学校保健委員会「ストレスと心の健康」について取り組み、第二回学校保健委員会でも振り返りと反省を行う。 ・引き続きバランススイ〜ナカードに取り組み、1年間の振り返りと、反省を行う。